

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		特定非営利活動法人だご				公表日	令和8年 5月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1		状況に応じてパーテーションで仕切っている。	照明の当たり方にも注意して、暗すぎたり明るすぎたりしないようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1			小規模なため、職員の欠勤時に他の職員で補うなど配置に工夫が必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1		荷物の出し入れがしやすいよう見合ったサイズの荷物入れを用意している。	文字が読めない子に対し、イラスト等の分かりやすい指示表、肢体不自由児に対して過ごしやすい動線などさらに工夫していきたい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1			同一時間に個別活動と集団活動が行われる場合の活動場所を考えていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1		声や音が気になる子には、個別に過ごすことの出来る空間を用意している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1		実行と改善については、職員間の打ち合わせと反省を繰り返し行うことで、スムーズに取り組めている	目標設定に関わる職員が固定化している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1		シートや聞き取りにより把握している。	聞き取りをする機会を多く持つようにする。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1		情報交換を密にし、連絡ノートに記入している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		1		外部の評価(自立支援協議会委員)を受ける機会を設ける。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1		リモート研修に積極的に参加するようにしている。回覧などで個々に学習している。	専門家を招いての講習会の機会があると良い。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	1			職員間で、内容を常に確認し共有する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	1		多くの情報を得ることを心掛けている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	1		個別支援計画を作成する時は、職員間で意見やアイデアを出し合うようにしている。	個々の特性を細かく把握できるようにする。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	1		記録などを通して、計画に沿った支援が出来ているか、職員間で話し合いをしながらすすめている。	こまめに見直す機会を設ける。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1			日々の記録と合わせてアセスメントを行うようにする。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	1		それぞれの生活環境や特性に考慮して作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	1		担当者を中心にして、児発管も参加しながら行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	1		個々の特性や発達の違い、その日その日の心身の状態を考慮して活動内容を工夫している。	集団活動でも個別活動でも偏りがでないようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	1		特性に応じて個別活動と集団活動の比率を考えている。こどもの意見、思いを重視している。	計画に沿った支援であっても支援者側の押し付けにならないように臨機応変に対応している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1		上手くいった支援も上手くいかなかった支援もその都度振り返るようにしている。	こども達の方も職員によって態度が変わることがあるので、全体で様子を見るようにして支援目標の根底にブレが生じないようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1		送迎や退勤時間の関係ですぐに伝えられない時は、共通の支援ファイルに記入し、こまめに確認するようにしている。	パート職員にはこちらから声を掛け支援について気軽に話せる環境にする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	1		担当を決めて毎日記録表をつけている。	欠勤した時などは、変化がなかったか確かめられるよう誰でも記録表を見られるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	1		6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	児発管と担当職員で話し合い目標に到達しているか見極める機会を多く設けていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	1		集団活動や個別活動に意識的に組み合わせを行っている。	自発的に取り組めるよう内容を工夫していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	1		活動内容を何パターンか用意し、自分で選べるようにしている。	それぞれの特性に応じて、自己選択を強制しない工夫も必要。精神の安定を優先する。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1			支援に対しての地域による考え方に差があるので難しい事も多々ある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1		職員兼保護者により一部の子どもについては連携が取れている。	地域差によってすべての体制が不十分なのが現状である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	1		長期休みに児発管が学校と情報交換を行い支援課題などを共有している	保護者を通じてのやりとりをお願いされることもあるのでこちらから学校に問い合わせられない時もある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1			現在対象者がいない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1			家庭と連携を取り、必要な場合に情報提供などを行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1			外部研修などを検討したいが地域差により困難な状況である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1		新聞をつくり児童クラブに届けた。	双方の状況をみて判断したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1		担当者が出席して、障害福祉の現状などを報告している。	放課後等デイサービス事業所や児童発達支援事業所が極めて少ないため参加しても現状を理解してもらうのは難しい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	1		電話や送迎時に情報交換をしている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1			福祉課などから地域の障害者福祉の説明会を開催する。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1		契約時に行っている。	定期的に行う必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	1		生活の様子を見ながら本人の意思の確認や保護者の意見などを確認するようにしている。	家庭状況や、子どもの状態を考えながら定期的に確認が必要。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	1		作成時に、説明と同意を得ている。	保護者にもわかりやすい文章にする。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1		相談があった時はその都度対応している。	より相談しやすい関係を築いていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1		保護者も一緒に参加するイベントを夏と冬に行っている。	参加率が増えるような工夫をしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	1		苦情や質問があった場合は担当職員が対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1		定期的に日々の出来事をまとめた通信を発行し、ホームページにも写真などを掲載している。	保護者が読みやすいツールにしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	1		職員間で共通理解を図っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	1		こどもとは何気ない会話を大切に、困りごとなどを話せるような関係を築いている。保護者とは送迎時の会話を大切にしている。	仕事の関係で送迎時に会えない保護者もいるので考慮していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		1		感染症の時期等に留意して地域と交流する機会を設けたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1			保護者への周知を徹底する。訓練にも積極的に取り組む。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1		専門家を招いて防災の講習や救急の講習を行った。	職員への周知と、訓練を定期的に行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	1			服薬に関する確認と説明書の提示を求める。変更時には再度掲示してもらおうようにする。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1			現在対象者はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1		定期的に危険箇所などを点検している。	見逃しがいないか、職員一人ひとりが安全管理について意識をもって対応する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1		安全計画の配布をした。	定期的に、家族と取り組みについて確認するようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	1		些細なことであっても報告書の記入を勧めるようにしている。	再発防止について、定期的に情報交換をする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	1		回覧など、定期的に学習している。	事例検討をする機会を設ける。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1		保護者と話し合っ、対応の仕方を検討し、計画に記載している。	行動の変化があった場合は、その都度保護者と話し合っ、計画の変更を行う。	